KAGUYA

AIの使用について（2023年6月28日）

SFレーベルKaguyaは、Kaguya Books、Kaguya Planet、かぐやSFコンテストと三つのSF小説の事業を営んできました。その中で、私たち自身がSF小説の魅力に惹かれ、救われてきました。

近年、生成AIの急速な発展と普及によって、AIを用いた小説の執筆が新しい局面を迎えています。技術の進歩が著しい中で、各種権利を守っていくためのシステムや倫理規範や共通認識の構築が追いつかず、一部では混乱も生じています。そのような中で、Kaguya として現状の思いを記しておきたいと思います。ここに書く内容は、数ヶ月後にはまったく通用しないものになっているかもしれません。しかし、状況が目まぐるしく変わっていく中でこそ、今果たすべき責任を見つめる姿勢が大切だと思います。

正直なところ、生成AIと小説の関係が今後どのようになっていくのかはわかりません。それでも、小説という文化はこれからも人類の営みの中で必要とされ続けると思います。その中で、小説に携わる全ての人が、雇用の機会を不当に奪われることなく、労働や労働の成果には正当な対価を得て、その功績に対してはクレジットが明記されていくことを願っています。

現在の日本では、「AI開発のような情報解析等において、著作物に表現された思想又は感情の享受を目的としない利用行為は、原則として著作権者の許諾なく利用することが可能」とされています（※1）。しかし、この法律によって今世界で交わされているAI利用に関する倫理上・道義上の議論を回避できるわけではなく、SFと小説の力を信じるコミュニティの一員として、議論されている課題と向き合っていく必要があります。

第三回かぐやSFコンテストの規約ではそのような状況を踏まえて、生成AIを使用する際には「人間の執筆者が執筆の主たる役割を担い、作品全体の統括、AIが作成した文章の取捨選択と大幅な加筆および改変を行なってください」としました。これは、応募する小説に対して執筆者が創作的寄与を加えることによって執筆者が応募作品の著作権を持っている状態にしてください、ということです。人間の執筆者が、執筆の主たる役割を担い、応募作品が受賞した場合に得られる様々な利益の受け取り手となり、また、応募作品とその内容に対して責任を負ってください。かぐやSFコンテストは、応募者の皆様の良心によって成り立っています。ご協力お願いいたします。

そしてこの規約は、小説執筆へのAIの利用に対する私たちの最終的な結論ではありません。様々な議論や集団訴訟、各団体からの声明の発表が続く中で、むしろ今現在の時点で性急な結論を出すことを避け、建設的な対話を続けていくための最低限の確認事項です。

また、AIによる創作が発展していくと、作家やクリエイターの雇用を奪うのではないかという懸念もあるかと思います。私たちは、書籍の刊行やオンラインマガジンの運営もしているレーベル

として、関係者の雇用や賃金を保証するということを大切にしていきます。長期的に見てそれぞれの職業がどのような変化を遂げていくかを考えると同時に、今・現在を生きている人の雇用や権利を蔑ろにしないことが重要です。

もちろん、生成AIの使用者だけでなく、技術者をはじめとする開発に携わる人や組織も透明性の確保に尽力し、説明責任を果たす必要があります。倫理規範が、ツールを使う個人や組織の努力に委ねられすぎることなく、安心して使える生成AIが開発されていくことを願います。

作家、技術者、媒体、読者のそれぞれの利益を守っていくための丁寧な議論には、状況の変化に伴い認識や態度をあらためていく姿勢と、状況を整理し、具体的な行動を提示するための的確で明瞭な言葉遣いが必要だと思います。例えば「AIの関与した小説」といった場合に、どんなツールを使い、どのような関与があったのか、ということ抜きにAll or Nothingで話を進めるわけにはいきません。

そして、SFWA（SFファンタジー作家協会）が2023年6月のAI利用に関する声明「Current Statement on AI/ML Use」（※2）の中で求めたように、試行錯誤の中での過ちに対しては冷静で寛容な態度も必要だと思います。現在の不安定な状況の中で、小説に関わる個人と各団体の構成員は各々の生活を営みながら、様々な問題に対するベターな回答を模索しています。本件に関する議論が急速に進められていく中で、大企業よりも中小零細へ、企業よりも個人事業主へ、経営者よりも労働者へ、マジョリティよりもマイノリティや社会的な立場が弱い人々へ、「言いやすい相手」に強い言葉と過度な要求が向けられる傾向を、私たちは強く憂慮しています。この議論と対話の中でハラスメントが起きない／を起こさないように、私たち自身も気をつけていく所存です。

また、日本と諸外国、海外においても欧米とそれ以外の地域では、AIの学習や文章の生成にまつわる法律や前提が全く異なります。日本において法令違反とならないからといって、海外でそれが通用するとは限りません。かぐやSFコンテストでは日本のSFを海外に送り出すということを一つの目標にしてきました。それぞれの事情を持つ海外の作家や翻訳家、そして媒体の利益のことも考えていきたいと思っています。

新しい技術はときに混乱ももたらしますが、小説という人類の豊かな文化と、それに携わる人々にとっての、より良い未来を考え続けたいと思います。

2023年6月28日 VGプラス合同会社

※1 文化庁「AIと著作権の関係等について」 https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/ai_team/3kai/shiryo.pdf 2023年6月27日最終閲覧

※2 https://www.sfwa.org/2023/06/13/current-statement-on-ai-ml-use/　2023年6月27日最終閲覧